

日本学術会議 食料科学委員会 獣医学分科会 (第24期・第1回) 議事録

日時：平成30年2月21日(水) 16時～17時

場所：日本学術会議5階 5-C(1) 会議室

出席者：石塚、高井、植田、尾崎、佐藤、代田、杉山、関崎、田村、芳賀、堀、吉川

議事：

1) 役員を選出

委員長：高井、副委員長：杉山、幹事：芳賀、堀 がそれぞれ選出された

2) 第23期の活動の成果

a) マスタープランの作成(大型研究計画に採択)

計画 No. 27 研究 食糧科学 15-4 One Health アニマルサイエンス研究拠点形成

b) 日本学術会議提言『わが国の獣医学教育の現状と国際的通用性』の公表(2017.3)

3) これまでの獣医学教育改革の歩み

高井委員長からこの10年間の獣医学教育改革の歩みについてスライドを用いて説明があった。

4) 第24期の活動について

- ・食糧科学における獣医学の意義と役割、獣医師ライセンスの国際認証関連、チーム獣医療などのキーワードが挙げられた。
- ・実践的獣医学教育、特に参加型臨床実習のあり方について獣医学分科会から何らかの形で提案できれば良いとの意見がだされた。
- ・これについてはモデルコアカリキュラムとの関連性が強く、全国大学獣医学関係代表者協議会と本分科会の責務との差別化を十分考慮する必要があるとの指摘があった。
- ・学術会議の果たすべき使命を念頭に置き、より国民の視点から理解可能な、より全体像を俯瞰できるような立場から、獣医学教育改善の方向性を示すべきであろうとの意見で合意を得た。以下、幾つか具体例を挙げる。

a) 高度化大規模化する農業・畜産業に対応できる獣医師の社会における使命を議論する。

b) 少子化高齢化社会の中で日本の国立大学が取るべき改革を、獣医学関係大学が先陣を切って実施して社会を牽引する(自助努力による教員規模の拡大や国立大学の統廃合など、獣医学教育の Hard 面からの改革の実践)。

→→日本学術会議提言『わが国の獣医学教育の現状と国際的通用性』を实践するような改革の後押しとなる。

c) 獣医学教育改革や昨年出された提言を社会に浸透させるようなシンポジウムの企画・開催。

5) その他

年2~3回必要に応じて同分科会を開催する予定。